

農業委員会発のエゴマ栽培で荒廃農地解消！ 地域の新たな特産品へ

おおたまむら
〔福島県大玉村〕

新規就農	企業参入	6次産業化	農地中間管理機構
農福連携	鳥獣害対策	地域・集落の共同活動	県・村単独事業

1. 地域農業の状況

○ 大玉村は福島県中通り地方の中央に位置しており、村の西端には日本百名山の安達太良山がある。

その稜線を仰ぐ田園風景と防風林に抱かれた集落が村内各地で見られ、シンボリックな景観となっている。



○ 1,000m級の峰々から流れる河川が作る肥沃な土壌と豊かな水資源などは農業に適しており、高品質のコシヒカリの産地として有名。

一方で、畑作による高収益作物の作付けは少なく、荒廃が進む畑の活用が大きな課題となっていた。



安達太良山と田園風景



荒廃農地

2. 地区概要

取組主体	農業者12名（個人）	地区名	大山地区
再生面積	2.2ha	取組年次	平成28年5月～現在
作付作物	エゴマ	販路	直売所、インターネット等で販売

3. 取組内容及び効果

農業委員会の挑戦が地域へ波及！エゴマを地域の新たな特産品へ

○ **農業委員会が荒廃農地40aで、新たな特産品としてエゴマの試験栽培を開始。**あわせて、広報紙やホームページなどで村の農業者にも協力を募った結果、4名の農業者が賛同。80aの荒廃農地でエゴマの栽培を始めた。

○ 先進地での研修や日本エゴマの会の指導を仰いだ栽培講習会により、栽培技術を確立。

生産者によるエゴマの会を設立するとともに、県・村の補助を得て選別機や搾油機などの加工に必要な機械も導入。

○ 現在、農業委員会の試験ほ場で70a、エゴマの会会員12名のほ場で1.5haのエゴマを栽培。全体で2.2haの荒廃農地解消につながった。

収穫したエゴマは、**エゴマの会で主にエゴマ油に加工し、直売所やインターネット等で販売**している。更なる販路拡大を目指し、村とともに奮闘中。



再生された農地



エゴマの実とエゴマ油

活用した支援策	H29・30 ふくしま「医食同源の郷」づくり事業（県） H28・29 油糧作物推進事業（村）
---------	---